

令和4年度 義務年限内の自治医科大学卒業医師の要望状況【内科系総合医】

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
安来市	安来市立病院 (148床)	1	0	2	<p>安来市立病院は、安来市における地域医療を確保していくことを改革プランの中心に掲げ、全職員一丸となって病院運営に取り組んでいます。また、救急告示病院として、安来市消防本部と連携して4割近くの救急患者を受入れるとともに、市南部の中山間地域に抱える無医地区3か所（広瀬町奥田原・広瀬町西谷・伯太町草野）のうち2か所（奥田原・西谷）で巡回診療を行うなど、地域医療拠点病院としても非常に重要な役割を担っています。</p> <p>こうした中、当院の常勤医は年々減少し、現在は6年前との比較で6名減の12名体制となり、特に内科医（神経内科含む）が4名減と顕著であり、通常の診療や救急診療に支障を来しています。特に訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療の開始は地域から大きく期待されているのにも関わらず、人材不足から昨年度までは実施できない状況でした。</p> <p>医師確保については、大学病院への訪問を中心にいろいろな取り組みを行ってきましたが、令和3年度に民間紹介会社からの紹介により、ようやく在宅医療に興味を持つ内科医1名が確保でき、その結果、本年6月から訪問診療を開始することができました。しかしながら、当院のように中山間地を抱える救急告示病院にとっては、幅広い知見で診療ができる総合医のさらなる確保は、在宅医療や救急医療の分野を維持していくためには非常に重要であります。</p> <p>つきましては、今後も継続した地域医療の確保を図るために、総合医を派遣いただきますよう切に要望いたします。</p>	Ⅱ	11	12

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																											
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3																																										
安来市	安来第一病院 (381床)	2	0	2	<p>当院は、安来地域の不足医療を解消するため、内科、精神科をはじめ乳腺外科、神経内科、呼吸器内科、循環器・消化器内科等の専門外来を含め18診療科を標榜し、急性期から慢性期までの医療・保健・介護・福祉サービスを提供しています。当院は、次の各項目について積極的に取り組んでいます。</p> <p>&lt;地域医療拠点病院として&gt; 訪問診療による安来地域の在宅におけるがん緩和ケアを提供しています。コロナ禍においては、訪問診療件数は増加しています（訪問診療427件／令和2年10月～令和3年9月実績）。 遠隔医療等の各種診療支援については年間90件の依頼があり、地域住民への医療を確保しています。</p> <p>&lt;在宅療養後方支援病院として&gt; 「在宅療養後方支援病院（登録人数53名／令和3年10月現在）」及び「地域包括ケア病棟」の施設基準を取得しており、在宅医療を提供する地域の医療機関と連携し、緊急時の受診、入院に速やかに対応できるよう努めています。 また診療所、急性期病院等から要請を受け、協同して在宅医療を行うとともに、訪問看護、訪問リハの体制を強化しています。</p> <p>&lt;救急告示病院として&gt; 当院は令和2年7月より救急告示病院の指定を受けております。地域住民の急変等地域包括ケアシステムにおける急性期治療の役割が果たせるよう鳥大病院の救急科の医師の派遣を受けながら実施しているところです。救急搬送受入れ件数は増加しています。休日夜間の受診患者数も増加しており、当院の担う役割が増えており、医師の確保がさらに必要となっております。</p> <p>救急搬送件数（単位 件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>17</td> <td>35</td> <td>31</td> <td>27</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>164</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;一般科入院患者数及び急性期病院からの受入れ患者数について&gt; 安来第一病院は、島根県地域医療構想において「他区域に入院していた患者が早期に安来地域に復帰すること」を目的に40床の増床が認められ、平成30年12月に地域包括ケア病棟を新築し、その後増床分の地域包括ケア病棟を令和2年4月から稼働しております。一般科平均入院患者数については、令和元年度136.14人から今年度164.10人と1日約28人増加しております。また、急性期病院からの転入院患者数について、令和元年度は前年に比べ88人増、1.3倍になっております。 現在も受入れ患者増加に向け、急性期病院等と連携を強化しているところです。地域医療構想の安来地域の課題解決に向け、当院の役割を果たしていると考えます。</p>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236	令和3年	24	30	17	35	31	27							164	Ⅱ	23	19
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																					
令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236																																					
令和3年	24	30	17	35	31	27							164																																					

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																																		
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3																																																	
安来市	安来第一病院 (381床)	前ページからの続き			<p>平均入院患者数（単位 人） *令和3年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科病棟</td> <td>136.14</td> <td>150.35</td> <td>164.1</td> </tr> <tr> <td>一般科・精神科合計</td> <td>310.51</td> <td>319.13</td> <td>331.72</td> </tr> </tbody> </table> <p>急性期病院等からの一般科転入院患者数（単位 人） *令和3年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科病棟</td> <td>263</td> <td>351</td> <td>324</td> <td>180</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;認知症疾患医療センター&gt;  島根県から指定を受け、認知症の診断や初期対応、相談等を行っています。地域の医療機関や関連する施設と連携し、症状や状態に合わせて予防や治療、入院、入所など選択・利用できるように取り組んでいます。  また、地域の医療従事者向けの研修を実施し、地域で認知症の方を支える体制強化に取り組んでいます。  最近では、精神症状のみならず身体疾患の治療を必要とする患者も増加しており、精神科医と一般科の医師が共同し治療にあたっております。</p> <p>&lt;常勤医の高齢化&gt;  安来市及び周辺の地域医療を支えて行こうとする当院にとって、近年、高齢のために常勤から非常勤となる医師が増えています。現在、常勤医21名中60歳以上が12名と半数以上であり、常勤医の高齢化が進んでいます。  今後、益々重要視される在宅医療を担う診療所をバックアップしつつ、病院として地域医療を安定して提供するためにも内科系総合医の確保が必要です。</p> <p>常勤医の年齢構成（単位 名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>40歳代</th> <th>50歳代</th> <th>60歳代</th> <th>70歳代</th> <th>80歳代</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>精神科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;安来市緩和医療及び看取りについて&gt;  安来市内の開業医の方々から、緩和医療を必要とする患者様の訪問診療及び見取りまでを依頼される案件が増えてきています。年々増加傾向にあります訪問診療や在宅での看取りを安定して継続するためにも、常勤の総合医が早急に必要となっています。在宅での見取り実績は、令和元年度2件だったのに対し、令和2年度は13件となっています。</p> <p>上記に理由により、今後引き続き、安来市における地域医療構想の課題解決、地域の医療需要に応じていくためには、内科系総合医の医師派遣を強く要望いたします。ご検討頂きますようお願い致します。</p>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	一般科病棟	136.14	150.35	164.1	一般科・精神科合計	310.51	319.13	331.72		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	一般科病棟	263	351	324	180		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計	一般科	2	3	5	2	0	12	精神科	2	2	2	2	1	9	計	4	5	7	4	1	21		
			令和元年度	令和2年度	令和3年度																																																				
一般科病棟	136.14	150.35	164.1																																																						
一般科・精神科合計	310.51	319.13	331.72																																																						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																																					
一般科病棟	263	351	324	180																																																					
	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計																																																			
一般科	2	3	5	2	0	12																																																			
精神科	2	2	2	2	1	9																																																			
計	4	5	7	4	1	21																																																			

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
雲南市	雲南市立病院 (281床)	1	0	-	—	Ⅱ	22	26

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
		雲南市	平成記念病院 (115床)	1			0	1
奥出雲町	町立 奥出雲病院 (98床)	2	1	1	<p>令和2年度末(令和3年3月)現在において常勤医師は6名であり、うち内科系医師は2名であり、医師に対する負担は相当厳しい状況でありました。その上年度末に小児科医の定年退職があり常勤医師が5名体制となる所であり、宿日直や救急体制について見直しが迫られる状況でありました。</p> <p>当院の診療圏域の対象人口は本町と近隣を含めた1万5千人余りです。令和2年度の状況としては内科外来患者数12,049人(1日平均49.6人)、内科入院患者数は、13,797人(1日平均37.8名)であり、内科の常勤医師には大きな負担を掛けている状態が続いています。このような状況から現在の体制では、これ以上内科入院患者を受入れることは出来ない現状であり、新型コロナウイルス感染症患者の受入れもままならない状況でありました。</p> <p>このような状況から、昨年度内科系医師の要望を行ったところ、島根県の深いご理解を得て、令和3年度から内科系常勤医師1名を派遣いただいている所です。これにより外来や入院の充実はもとより、救急体制や宿日直の回数等も改善でき、他の常勤医師にとっても働きやすい環境が整いつつあります。</p> <p>近年、当院が果たす役割が変わってきたことにより、昨年11月から病床再編を進め病床数を98床に削減を行い、介護医療院(定員50人)を設置しました。また今年4月から訪問看護ステーションを病院で管理運営することとなり、合わせて「在宅診療センター」を設置し医師が訪問診療に出かける体制が整いつつあります。これから当院としては地域包括ケアシステムを構築していくため重要な時期であります。</p> <p>つきましては、町や病院の実情をご賢察いただき、内科系総合医の派遣を継続いただき、町民が安心して暮らせる地域医療に繋がるよう更に努めて参りますので、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>	Ⅰ	6	7

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
飯南町	町立飯南病院 (48床)	2	2	2	<p>現在、常勤医師は内科医5名であり、うち島根県からの派遣医師は4名（うち義務年限内の医師2名）となっています。同じく本町が運営する飯南町立来島診療所については、平成28年4月から常勤医師が不在となり、当院の内科医がその都度出向いて診療を行っている状況です。その他、飯南町立志々出張診療所、飯南町立谷出張診療所についても同様の診療を行っています。</p> <p>令和2年度の患者のうち内科の患者数は、外来で年間18,983人（診療所を含む）と医科全体の68.9%、入院で年間10,723人と医科全体の94.0%を占めており、内科診療は当院の中心を為す重要な診療科目であることがわかります。また、総合医として1名の医師が外科外来も担っており、患者数はそれぞれ外来で2,738人、入院で685人となっています。その他、内科系総合医により、内視鏡を用いた検査、処置等が803件、超音波診断装置による検査、処置が598件となっており、これらについても欠くことのできない業務となっています。</p> <p>当院は、町内唯一の救急告示病院として、令和2年度には年間918人（うち救急車83人）の時間外患者を受け入れているほか、町内はもとより近隣の雲南市及び美郷町の一部からも患者を受け入れるなど、住民の安心・安全な暮らしにとって欠かせないものとなっています。</p> <p>町内には介護福祉関連施設が8ヶ所と多く、高齢者世帯も多いことから、入院機能の維持に加え、関連機関との連携強化を含めた在宅医療の支援も重要な取り組みの一つとなっています。</p> <p>今後も地域医療拠点病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステム推進のため、より一層の取り組みを図っていくためにも、内科系総合医の増員は必要不可欠です。</p> <p>このような中、これまでともに本町の地域医療を担ってこられた町内唯一の開業医が令和元年末をもって閉院されたことにより、医科系では、当院が町内唯一の常勤医を配置する医療機関となり、より一層当院の担う役割が大きくなっています。</p> <p>働き方改革が求められる中、常勤医師の日当直業務は、1人あたり月平均7回程度と非常に大きな負担となっている状況もあり、勤務間インターバルの確保などへの対応も大きな課題となっています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応については、島根県から外来では診療・検査医療機関に、入院では協力医療機関に指定されており、次なる感染の波が予想される中で一般医療との両立が課題となっています。さらには、ワクチン接種への対応など業務量の増加を考慮すると、常勤医師の確保が急務であります。</p> <p>当院では、常勤医師7名体制を目標とし、地域住民の求める医療の提供をするため、また、町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関を維持するとともに、地域医療の拠点として、次の活動を確保していく必要があることから、内科系総合医の増員派遣を強く要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関としての「かかりつけ医」機能</li> <li>・地域の医療機関（へき地診療所）との連携（診療支援・検査協力等）</li> <li>・在宅療養支援のための訪問診療（訪問看護ステーションとの連携）</li> <li>・本町が実施する人間ドック、特定健診、ワクチン接種などへの協力及び支援</li> <li>・介護福祉施設等の入所者の診療</li> <li>・学校医、産業医としての活動</li> <li>・初期臨床研修医を含めた医療従事者の地域研修、総合診療専門医の育成体制の充実</li> <li>・院外研修により地域医療を支えながら、広い診療能力の維持や新しいスキルの獲得</li> </ul>	I	6	6

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	1	0	1	<p>はじめに)</p> <p>加藤病院を運営する社会医療法人仁寿会は、救急確保等事業のうち他の公益性とは一線を画す慢性期多機能医療が枢要なへきち医療を担う社会医療法人です。平成23年8月1日に島根県知事の認定を受け、社会医療法人の主たる所在地人口では全国最小（総務省・厚労省令和2年1月1日現在）の地域で包括的かつ統合された地域医療・介護サービス事業複合体事業として地域包括ケアを展開しています。</p> <p>加藤病院は強化型在宅療養支援病院として在宅医療を基軸としており、病床数81床のうち、地域包括ケア病棟55床は主にサブアキュート機能を担い、また、26床の在宅復帰強化型の医療療養病棟は地域包括ケアシステムにおける在宅療養の支援を入院機能においても行っています。また、無医地区等のへき地保健医療対策が必要な地域になる美郷町立君谷診療所への管理医師の派遣を通じて、半世紀以上にわたり無医地区での診療支援を行なっています。更に平成26年度からは川本町の無医地区3地区への巡回診療(モバイルヘルスクリニック)を開始、令和元年8月からは大田圏域の温泉津町井田地区への巡回診療を毎週水曜日の午後を診療日としています。地域の状況を鑑み、引き続き温泉津地域の訪問診療をはじめ、大田圏域の医療課題の解決支援にも注力する必要があると私たちは思っています。病院併設の在宅超強化型介護老人保健施設「仁寿苑」、医療近接型住宅「穩」、さらにサービス付き高齢者向け住宅「リハビリテーション&amp;ナーシングテラス 和かち逢う家」においては、主に介護保険制度を活用した在宅療養復帰・維持支援を住み慣れた地域に「住まう」ための機能として提供しています。</p> <p>その他の公益に資する活動では、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条に基づき策定された島根県計画に基づき、地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図るための事業として、邑智郡医師会から受託している地域医療連携コーディネーター配置事業を行っています。さらに、同補助事業のひとつである、しまね型医療提供体制構築事業においても地域歯科医師会との連携等、多分野多部門横断的な活動を展開しています。</p> <p>さて、公ではなしえない民間医療機関等への医師派遣を通じた地域医療支援を行っていることも、社会医療法人仁寿会の大きな特色となっています。大田圏域、浜田・江津圏域の介護老人保健施設への医師派遣は、地域の医療のみならず、介護保険サービス提供体制の維持においても必要不可欠なものと各機関では認識されています。私たちも地域医療・介護提供体制の総合確保を支援する重要な役割として当活動を今後も継続してまいりたいと思います。自治体を超え、さらには大田・邑智二次医療圏にとどまらず、地域の社会資源を有機的かつ統合的に活用することによって、現在の社会医療・介護政策を地域ニーズに適合させつつ推進することは、社会医療法人に与えられた極めて希少かつ他に類をみない有用な機能であり、プライマリヘルスケアの成果としての地域住民の皆様への健康に貢献する所存です。</p> <p>1. 巡回診療等による地域住民の医療確保に関すること 平成26年10月より、ヘルスプロモーションカー（小型ドクターカー）「ざいたくん」による川本町の無医地区3地区へ巡回診療を行っています。 (1地区は患者受診実績がなく巡回診療休止中)</p>	Ⅱ	12	12

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>2. へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣（へき地診療所の医師等の休暇時等における代替医師等の派遣（継続的な医師派遣も含む）を含む。）並びに技術指導、援助に関すること 半世紀以上にわたり、美郷町立君谷診療所への管理医師、看護師、事務職員の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっています。</p> <p>3. 派遣医師等の確保に関すること 社会医療法人仁寿会の常勤医師は、本年10月現在12名 ※(男性医師10名、女性医師2名)です。（※12名のうち、男性医師2名は3日/週、1名は4日/週、女性医師1名は3日/週、1名は4日/週の勤務です。） 加藤病院では外来診療、地域包括ケア病床及び医療療養病床診療、居宅における訪問診療、無医地区への巡回診療、また、介護老人保健施設仁寿苑の診療、診療所2ヵ所の外来診療を行っています。更に大田市立祖式診療所の指定管理を法人として請負、大田市立病院、石東病院への専門外来支援、民間老人保健施設2ヵ所、民間特別養護老人保健施設1ヵ所の代診診療への医師派遣、荘内診療所配置医師としての診療も行っています。また、JAの健診での医師応援体制を求められており、常勤医師の高齢化、また、働き方改革を進める上で、これ以上の派遣機能を担うには、医師の確保が喫緊の課題です。</p> <p>4. 地域の医療従事者に対する研修及び研究施設の提供に関すること 地域医療実習初期臨床研修医は新型コロナの影響によりR2年度は2名のみ受け入れとなりました。これからの地域において、必要な総合医を育成するために多職種連携によるチーム医療を学ぶプログラムの提供や、法人内に仁寿会メディカルスタッフスキルアップセンターを新たに設置し、大田圏域の医療介護関連専門職が、従事する地域で専門的な研修を受けることで働き続ける環境・体制構築に取り組んでいます。 また、島根大学医学部学生、広島国際大学薬学部学生、島根県立大学看護学科との医薬看専門職連携学生教育プログラムによる3学部学生合同臨床実習や、リハビリテーション専門学校学生など将来の地域医療人の育成支援として実習指導など教育活動も行っています。また、島根大学医学部および島根県立大学看護学科、また企業との共同による認知機能に関する研究や島根県ブランド品の開発あるいは販路拡大につながるなどの研究にも積極的に参加し、国内はもとより海外においても研究成果を発表しています。（別紙仁寿会の有する現在の主な機能等一覧参照） 広島国際大学IPE（専門職連携教育）と連携予定（新型コロナの影響で令和4年度へ延期）</p> <p>5. 遠隔医療等の各種診療支援に関すること 25年度から島根県在宅医療連携推進事業の採択を受け、多職種連携による包括ケアシステムの構築を27年度まで行ってきました。28年度からは、邑智郡歯科医師会の協力を得て、邑智郡食事栄養支援協議会を発足しました。また、29年度からは、しまね型医療提供体制構築事業を県より受託し、圏域の医療介護提供体制の課題抽出と解決に向けに取り組んでいます。 さらに平成30年度から医療介護総合確保基金による病床機能分化に向けた機能分化に向けた医療連携推進コーディネート事業を邑智郡医師会より受託しました。このことにより地域における包括的かつ継続的な在宅医療介護の提供を目差すと共に、今後まめネットやICTを活用した在宅医療介護に関する施策の均てん化などに全力で取り組む準備を引き続き行っています。</p>			

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>6. 地域の医療機関との連携による「ブロック制（拠点となる病院と近隣の診療所等では病院医師が専門診療を行い、学会や研修会出席時等における代診を相互に行う医師の相互交流システム）」等の推進に関する事 診療所の医師が学会等により不在の場合、在宅等での看取りに対応するための患者情報を共有し、在宅看取りを行うことができるよう体制を構築しています。</p> <p>7. その他市町村が地域における医療確保のために実施する事業に対する協力に関する事 学校保健医として町内の保育園、小学校、中学校、県立中央高校の園児・児童・生徒の健康管理を行い、また、産業保健医として県立高校、地元企業、島根県警川本警察署を含め郡内7つの事業所の労働者の安全衛生管理を行い、地域衛生水準の向上に寄与するとともに、警察嘱託医として管轄内の遺体検案業務等警察行政への医療支援にも貢献しております。</p> <p>以上のように多岐にわたって社会の公器としての公益的な診療・健康管理・社会活動を行う中で公益的な活動へのさらなる貢献要請が、近年特に増加しているという現状があります。慢性的な医師不足という状況に変わりはありません。</p> <p>非常勤医師の現状) — 派遣受け入れ医師数昨年度比減少 加藤病院は、島根大学医学部附属病院から多くの診療科にわたる非常勤医師を臨床指導医として派遣していた だいており、地域において必要な専門性の高い医療サービスを提供することができる環境となっています。しか し、医療勤務環境改善、医師の働き方改革の推進等ご存知のように、大学からの医師の派遣においては、さら なる困難な状況が依然として続いており、その結果、加藤病院常勤医師の上記医療に関する活動を継続するた めには現在以上の応援体制の継続が必要です。</p> <p>へき地医療を継続するためには地域で活躍することのできる家庭医（総合診療医）の養成が必要不可欠です。 その観点からも、地域という最前線の臨床「現場」で一定期間、お互いに学び合い、教え合う環境の整備が望 まれます。これにより、地域医療を担う家庭医（総合診療医）の現場力の維持・更新が可能となります。そして、 さらに重要なのが官民の人材交流です。多分野多部門横断的な活動がこの島根の地域包括ケアシステムの継続 的な発展には必要であり、その鍵となるのが官民の人材交流です。有為な人材育成に資する方策としてぜひ実 現していただきたく存じます。 以上の理由により、へき地で働くことができる医師の派遣を是非よろしく願いいたします。</p>			

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
邑南町	公立邑智病院 (98床)	2	1	2	<p>公立邑智病院は邑智郡内唯一の救急告示急性期病院として、邑智郡に不可欠の社会インフラとなっています。高度医療、救命救急医療などを除く、急性期医療の8割を地域内完結することを目標に、各診療科が「相互支援」「相互指導」のもと、できるだけ専門分野にとらわれない診療を行っております。また、高度急性期病院から診療所・在宅までを繋ぐ中間的な医療機関として、邑智郡地域連携推進協議会の事務局で郡内82機関の会議を主催する等、病病連携や病診連携、介護福祉施設との連携強化を図っております。</p> <p>当院の内科は平成26年4月から総合診療科と広告し、プライマリケアから上部・下部消化管の内視鏡検査、透析管理など、幅広い診療や保健予防活動の分野においても重要な位置づけとなっており、年々需要が増しているところです。今年度からは、外科医が1名減ったことに伴い、外科外来を総合診療科医師が週1回担当するなど、小外科診療も守備範囲となっております。また、透析管理業務も週2日程度担当しておりますが、今年度末をもって泌尿器科医師の開業退職が決まっており、島根大学からの後任医師派遣も困難なことから、土曜日を含めて週3日間を総合診療科医師で支援する必要があります。</p> <p>診療所の支援については、矢上診療所の宮本医師が、昨年度から当院で週1回内視鏡検査を行っており、その代診として当院医師が矢上診療所へ診療に出かけています。また、宮本医師が不在時(休暇、出張)にもスポット派遣を行うなど、病診連携を強化しております。これは内科系総合医が5名常勤でいることにより成しえていることでもあります。</p> <p>このような中、12月末をもって現在勤務しております内科系総合医(独自採用)1名が退職することとなり、これまでと同様の外来体制、入院機能を維持しつつ、他医療機関への派遣も継続することは一人当たりの医師の負担が増えることとなるため、令和4年度に上記人数を要望いたします。</p> <p>教育体制としては、98床の急性期及び地域包括ケア病棟を備えた、地域で唯一の急性期救急病院であることから、幅広い疾患を経験することができ、総合診療医が活躍できる地域であると考えます。更に、内視鏡業務においては、地域で開業されている三上医師の支援・指導も受けており、専門医の技術を学ぶことができます。</p> <p>島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院等の島根県内の基幹病院及び東京医科歯科大学医学部附属病院の総合診療専門プログラム、内科専門プログラムへの協力施設であり、都市部の大学からも期待される教育施設としての負託にこたえるべく努力する所存であります。</p> <p>現在の運営状況として、許可病床98床の令和2年度病床稼働率は77.2%、うち平成26年10月から届け出ている地域包括ケア病床41床の病床稼働率は88.0%となりました。</p> <p><b>【令和2年度データ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療科外来患者数 12,731人</li> <li>・救急受け入れ患者数 2,211人(うち救急車599人)</li> <li>・内視鏡検査1,194件</li> </ul> <p>(内ポリープ切除術件数100件、ERCP 10件、ESD 7件、PTGBD 0件)</p> <p>以上のことから、自治体病院として地域住民の負託に応える医療機能を永続するために、総合診療外来2診、外科外来、入院管理、内視鏡検査、透析管理、2次救急、当直、代診派遣の体制を継続するには、最低5名の内科系総合医が不可欠であると考えており、うち2名の医師派遣を要望します。</p>	I	9	9

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
江津市	島根県済生会 江津総合病院 (280床)	3	0	3	<p>平成18年、現在地に新病院を移転開院した当初26名いた常勤医師も現在は16名と激減している。その内、2名は70歳以上、更に1名は定年延長をお願いした医師であり、体力的にも厳しい中ではあるが、強い使命感で診療をしていただいている状況である。</p> <p>当院は、江津市内はもとより、大田市の西部並びに邑智郡の一部の地域の住民を中心に、地域の住民が安心して暮らすことができるよう救急医療も含めた医療の提供に努めている。特に、高齢者は慢性期疾患を抱え、内科系の医療の充実は必要不可欠である。しかしながら、消化器内科は、平成27年3月末に3名の退職があり、平成30年度以降は、高齢な医師と派遣医師1名の2名体制で診療にあたっている。また、内科については、今年5月に1名確保することができたが、現在は消化器科・循環器科医師の協力を得て5名で内科診療も行っている状況でもある。</p> <p>今後、地域の人口減、高齢化がより深刻となる中で、当院の診療体制は内科総合医を中心とする体制に移行していきたいと考えており、このため是非3名の派遣をお願いしたい。</p> <p>(令和3年4月～9月の内科実績)  外来 延患者数 3,116名 外来収入 25,871千円  入院 延患者数 765名 入院収入 27,407千円</p>	Ⅱ	14	16

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
江津市	西部島根医療 福祉センター (112床)	1	0	1	<p>1) センターの概要</p> <p>当医療機関は島根県西部地域の江津市に位置し、病床数112床、外来診療科14科を標榜し島根県の西部圏域の地域医療を支える役割を担っている。 医療機関の主な基礎データは以下となっている。</p> <p>○標榜科 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、内科、循環器内科 消化器内科、神経内科、糖尿病内科、外科、小児外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、 歯科口腔外科</p> <p>○患者数（令和2年度実績） ・外来1日平均患者数 108.7人（再掲 内科系1日平均外来患者数 20人） ・入院1日平均患者数 99.5人</p> <p>○医師数（令和3年10月1日現在） ・常勤医師 6名（再掲 内科系0名） ・非常勤医師 常勤換算数3.08名（再掲 内科系1.06名）</p> <p>○医師派遣事業（令和2年度実績） ・乳児健診等 6市町 年間40回実施</p>	Ⅱ	5	5

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
江津市	西部島根医療福祉センター (112床)	前ページからの続き			<p>2) 現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常勤内科医不在の問題 患者数1日平均約100人の入院部門については、医療機関であると同時に障害児者施設としての機能も有しているため、呼吸器管理や吸引吸入が必要な感染リスクの高い方など「重度重複障害」を持つ超重症児者・準超重症児者が多く、感染症や呼吸器疾患の対応を小児科・整形外科医師が行っている。 また、高齢化による内科系疾患や悪性腫瘍のリスクが年々増してきているが、平成28年8月に常勤の内科医師が退職後、内科系の常勤医師の不在が続いているため、疾患によっては他医療機関へ依頼せざるを得ない場合もある。 外来部門では、週3日と月2回非常勤医師により外来診療を行っているが、曜日によっては医師不在のため、必要な医療が提供できていない状況にある。市町依頼の健診や予防接種も出来る限り対応しているが、通常の診療との兼務であり、医師個々の負担は大きい。</li> <li>●医師の受け持ち患者数について 入院診療は、常勤内科系医師不在の状況の中、近年4ヵ月のローテーションによる派遣常勤小児科医1名と期限付の常勤小児科医1名の2名で入所者約100名を受け持ち対応している。</li> <li>●小児科の予約待ちの状況 小児科は発達障害の診療を主に行っており、学校や関係機関からの紹介も多く、予約が5ヶ月待ちの状況となっている。3名の小児科常勤医のうち2名の小児科医は多数の入院患者の対応で外来診療は難しく、状況の改善のため、他医療機関への患者紹介を行うとともに、近年は市町健診業務の見直しを行い診療日を増やすなどにより、常勤医1名と非常勤医で診療の対応をしているが、問題の解消には至っていない。新患の件数も継続して年間100名を超えており、近年ますます増えている状況である。</li> <li>●医師派遣事業 乳児健診を始めとする医師派遣事業を島根県西部圏域で実施しており、乳幼児の小児神経疾患及び整形外科疾患の早期発見を行っている。小児科の予約待ちの状況を緩和するため、当センターが実施する医師派遣事業の見直しが必要な状況となっている。</li> <li>●その他 内科系医師不在により敷地内の併設障害者支援施設の嘱託医の業務、当直業務等を行っており、常勤医個々の負担はさらに高まっている。 また、9月末に常勤の整形外科医師1名が退職したことにより、当直業務を常勤医師4名と非常勤医師で担当していた体制が常勤医師3名と非常勤医師で対応しており常勤医師にかかる負担は相当なものである。 そのほか、令和4年度にはローテーションによる派遣常勤小児科医1名の派遣が終了する見込であり、期限付医師1名と併せて2名減少する見込みである。</li> </ul> <p>以上から、今回派遣をいただいた場合、地域における外来診療や入院の重症児者への総合的な診療、併設施設の嘱託医、当直業務に対応していただくことにより、小児科の予約待ちの問題の緩和、安定した地域医療の提供、当センターの果たすべき役割である障害児者への充実した専門医療の提供、そして乳児健診を始めとする医師派遣事業の充実した提供が可能となる。</p>			

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																					
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3																				
浜田市	国民健康保険 診療所連合体 (波佐・小 国・あさひ・ 弥栄・大麻)	1	0	1	<p>浜田市国民健康保険診療所連合体は、中山間地域の医療を確保するため、5つの診療所（大麻診療所、波佐診療所、波佐診療所小国出張所、あさひ診療所、弥栄診療所）を運営しており、現在5名の医師（常勤2名、任期付職員2名、県派遣1名）で、診療をぎりぎりの状態で行っている。</p> <p>令和3年度末には、常勤医師1名が定年退職を迎えることとなっており、中山間地域の医療の確保はもちろんのこと、当市の保健・医療・福祉の課題解消に向けた各種行政施策への参画や、将来の地域医療を担う人材育成など、この連合体の果たすべき役割を維持し、新たな人材へ継承していくためには、早期の医師確保は必要不可欠であり、1年間連合体で従事する医師1名の派遣を強く要望する。</p> <p>&lt;施設別一日当たりの診療件数及び診療日数（令和2年度）&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>診療件数(延べ) ①</th> <th>診療件数 ①÷②</th> <th>診療日数②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民健康保険大麻診療所</td> <td>743件</td> <td>5.1件</td> <td>144日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険波佐診療所(小国を含む)</td> <td>3,378件</td> <td>12.7件</td> <td>265日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険あさひ診療所</td> <td>5,051件</td> <td>18.8件</td> <td>268日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険弥栄診療所</td> <td>8,121件</td> <td>30.7件</td> <td>264日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※診療日数は半日診療も1日としてカウントしている</p>	施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②	国民健康保険大麻診療所	743件	5.1件	144日	国民健康保険波佐診療所(小国を含む)	3,378件	12.7件	265日	国民健康保険あさひ診療所	5,051件	18.8件	268日	国民健康保険弥栄診療所	8,121件	30.7件	264日	I	1	1
施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②																									
国民健康保険大麻診療所	743件	5.1件	144日																									
国民健康保険波佐診療所(小国を含む)	3,378件	12.7件	265日																									
国民健康保険あさひ診療所	5,051件	18.8件	268日																									
国民健康保険弥栄診療所	8,121件	30.7件	264日																									

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
益田市	益田地域医療センター 医師会病院 (253床)	3	0	3	<p>益田地域医療センター医師会病院は、益田圏域の急性期から回復期、慢性期、在宅医療支援までの幅広い機能を有し、地域医療拠点病院として、長年、益田市医師会員の協力も得ながら、圏域内の無医地区への巡回診療（令和2年度実績 計216日）を継続し、現在、今年9月より小野（滑）地区を加え計6カ所の無医地区への巡回診療を実施しています。また、応援診療として、津和野共存病院へ週一回の整形外科医、婦人科医の派遣（令和2年度実績 計67日）や、六日市病院への宿直応援（令和2年度実績 計12日）、国保知夫診療所への宿日直代診の派遣（令和2年度実績 計40日）等を行っており、その他、平成17年「益田市国民健康保険診療施設美都診療所」開設と同時に、同診療所の指定管理を法人として受託し、以後、地域医療を維持するため不可欠な機能を継続して担っています。</p> <p>また、当院は医師会立病院の特性を生かし、地域のかかりつけ医との強固な連携の元、地域医療支援病院（令和2年度実績 紹介率96.9%・逆紹介率99.8%）として、また、圏域独自の地域包括ケアシステム推進においても在宅医療後方支援病院（登録患者数81名／令和3年10月現在）として、圏域の医療提供体制に重要かつ不可欠な役割を果たしていると自負しています。</p> <p>一方で、当院の医師数は最盛期（平成24年）の19名より年々減少し、現在11名の常勤医でこの病院機能を支えています。常勤医の高齢化も顕著であり平均年齢は52.8歳、11名のうち5名は60歳を超え、宿日直ができる医師も限定されています。このような状況下において、独自の医師確保対策として平成30年より医師会員の協力を得て開始したへき地・離島で活躍を目指す若手医師の育成プロジェクト「親父の背中プログラム」によって、辛うじて毎年1～2名の医師の確保はできていますが、勤務年数を限定した循環型プログラムのため非常に不安定な状況であることになり変わりありません。また、島根大学医局をはじめとした関連大学への要請をはじめとして、人材コンサルティング会社の活用など不断の努力を重ねておりますが残念ながら増員にはつながっていないのが実情であります。</p> <p>現在、内科外来の診療・検査および一般病棟（60床）及び地域包括ケア病棟（60床）の内科入院は医師2名（院長と親父の背中プログラムの医師）で担っています。また、コロナ禍においても、ワクチン接種や即応病床への入院受入、益田赤十字病院コロナ対応時の救急受入支援等、限られた医師数での対応で常勤医の負担は極限に達しています。令和3年度末には親父の背中プログラムの医師1名が退職することが決まっております、令和4年4月から内科1名体制となることを見込まれており、このまま医師確保が叶わなければこの圏域の医療崩壊にもつながりかねません。</p> <p>また、当法人運営の国保美都診療所に関しても医師の年齢は65歳を超えており、益田市匹見町の国保匹見道川診療所・澄川診療所の運営を行う匹見町唯一の開業医も70歳を超えており、当院も含めた支援体制を検討すべき時期に差し掛かっています。</p> <p>今後も地域の医療提供体制を堅持するため、当院への医師派遣についてご検討賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>令和2年度 外来患者延べ数 22,866人 （うち内科 1,780人） 入院患者延べ数 90,990人 （うち一般病棟および地域包括ケア病棟の内科入院患者延べ数 11,097人） 内視鏡検査件数（上部363件、下部183件）</p>	Ⅱ	13	11

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
		津和野町	津和野 共存病院 (49床)	2			1	2
津和野町	日原診療所	1	0	1	<p>当診療所は、主に津和野町及び隣接する吉賀町、益田市の住民に対応しています。</p> <p>内科常勤医師1名、非常勤医師3名により5日/週(外来患者数34名/日)訪問診療(42名/登録)を実施しております。</p> <p>H30年10月以降、開業医が閉院し町民の不安が増える中、医療を守り町民が安心して生活できる環境を整えるために、津和野町施設を増改築して診療所を令和4年3月に移転予定です。簡易検査機器、レントゲン装置を設置し、地域の医療を担う重要な機関として、住民の健康維持に欠かせない医療機関であります。</p> <p>今後は巡回診療も予定しており、現在の医師一人体制では非常に厳しい状況です。</p> <p>また、当診療所の内科医師の健康維持のための有給休暇の取得および研修、学会への参加による医療技術と知識の向上は地域住民の安心・安全を守るためにも必須となります。</p> <p>これらのことにより医師派遣を強く要望します。</p>	I	1	1
吉賀町	社会医療法人 石州会 六日市病院 (110床)	1	0	1	<p>当院は、島根県・山口県・広島県の3本の県境が交わっている地域にある病院で、入院・外来ともに3県の患者が利用されています。また、鹿足郡唯一、24時間体制で救急医療を担っており、令和2年度外来受け入れ件数は29,109件でした。</p> <p>一昨年度内科常勤医師2名の退職後より該当医師の採用はなく、他常勤医師7名にてカバーしている。また、現在常勤医師の大半が高齢であり、当直業務ができる医師に限られ非常勤医師の協力を得ながら現状維持をしておりますが、当直を行う常勤医師の負担が増大しております。医師確保が困難で、休日及び時間外の診療に支障をきたす可能性があります。</p> <p>地域から求められている「最低限の医療提供」を維持するためには、常勤医師の確保が必須であるため、最低1名の医師遣を要望致します。</p>	II	7	7

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
		隠岐の島町	隠岐広域連合 立 隠岐病院 (115床)	4			4	4

当院は、隠岐医療圏の地域医療拠点病院として、限られたマンパワーの中で、島でできる医療の提供に向けて日々取り組んでいます。離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、開業医等の減少もあり、地域医療における当院の果たす役割は益々高まっており、中でも自治医科大学出身の県派遣医師がいなければ離島医療を守っていくことができない状況となっています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、総合診療科（昨年10月から内科から院内標榜）においても患者数が大幅に減少しましたが、令和3年度は一定程度回復し外来患者数120名/日超、入院患者数は40名/日超となっており、特に外来患者数は同規模病院と比較すると非常に多い状況（全国平均の約2倍）にあります。そのような状況でも、常勤医不在診療科（耳鼻科、泌尿器科、皮膚科）のプライマリ・ケアとして、専門医の診療を必要とする前の初診も受けるとともに、町立診療所との相互診療や医療提供が必要な在宅医療も推進するなど、「この島に住む安心の医療」を提供できるように常に先頭に立って対応しています。

加えて、同様に新型コロナの影響があるものの総合診療科を中心に救急外来対応（令和2年度：救急車受入件数477件、休日及び時間外患者数3,868人）、内視鏡等の検査（令和2年度実績：上部1,488件、下部498件）、透析、リハビリなど様々な業務も兼務し、また宿日直（1人あたり月4回程度）にも対応しなければなりません。

更に、他の医療機関も同様ですが、当院においても新型コロナについては、総合診療科で発熱外来や感染確認後の入院等に対応するなど、限られた人数で通常の診療で多忙を極めている上に、常に緊張感がある中で診療に携わっています。

また、令和2年度末で27年間も神経内科はもとより、透析、リハビリ、皮膚科のみならず診療所支援にも対応いただいた、総合医として当院の顔とも言うべき医師の退職や長年におたり、内科の柱であった医師も自院を継ぐために退職するなど厳しい状況となったものの、4名の義務年限内の医師を含め自治医科大学出身を中心とした県派遣医師により、その状況を微塵にも感じさせない、島民が不安を抱くこともなく離島医療が守られています。

一方、離島での医療は身体的、精神的負担は大きく、医師の働き方改革も含め診療看護師1名体制ですが診療部に診療支援室を設置し、特定看護師の養成、医療クランクの増員などタスクシフトの推進を強化し、引き続き勤務医負担軽減に取り組むとともに、平成29年に設置した島の医療人育成センターを初め、独自の医師確保対策等を強化しておりますが、離島という特殊性も鑑み、どうしてもお願いする医師数が必須となります。

市町村	医療機関名	R 3		R 4	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R2	R3
西ノ島町	隠岐広域 連立 島前病院 (44床)	2	1	1	<p>隠岐島前病院は、隠岐島前地域の3島唯一の病院であり、病院勤務医はブロック制により島前各診療所での診療にも従事するなど、地域医療拠点病院として島前地域の医療の中核的な役割を担っている。</p> <p>島前病院への県派遣医師は参与及び院長を含めた6名で、前述の通り医師確保が困難な知夫診療所、浦郷診療所、へき地三度診療所への医師配置等を包括的に管理したブロック制で運用している。これらの診療所への恒常的な医師派遣のため、島前病院における常勤人員は県派遣医師4名及び独自採用1名の合計5名で、そのうち義務年限内の医師は、1名である。</p> <p>病院の令和2年度の入院患者数は年間延べ人数12,914人で外来患者数は、常勤医の担う内科(13,018人)、小児科(1,156人)、外科(6,313人)で年間延べ人数20,487人である。</p> <p>常設の診療科は内科2診と外科1診であるが、外科を内科医が兼務しており、内科外来では医師1人あたり約29.4人を、また、外科外来では医師1人あたり約26.1人の外来患者を診察している。</p> <p>診察時間は13時頃までと遅く、患者数によっては16時頃まで診察する場合もある。また、病院医師は、消化器・循環器・呼吸器等、内科全般にわたり総合医の役割を担って診療しており、病院・診療所での診療のほか、胃カメラ・エコー等の検査にも従事するなど、少ないマンパワーで多忙を極めている。</p> <p>このほか、隠岐島前病院では在宅医療の支援体制を推進しており、医師の訪問診療等や西ノ島町内の老人福祉施設への往診も行っている。</p> <p>これらのことから、現状の診療体制の確保のため少なくとも地域医療支援会議の派遣医師1名を希望する。</p>	I	5	6
知夫村	国民健康保険 知夫村診療所	1	1	1	<p>当診療所は、長い期間にわたり地域医療支援会議により自治医科大学卒業医師の派遣を受け、診療機能を維持してきました。</p> <p>常勤医師獲得のため専門誌へ医師募集の広告を掲載する等懸命に取り組んでおりますが、現在のところメドがたっておりません。</p> <p>当診療所は、島唯一・村唯一の医療機関であり、無医村となることを避けるため、自治医科大学卒業医師の派遣を要望致します。</p> <p>令和2年度 患者数 4,414件(内急患数119件) 1日平均 23件</p>	I	1	1
合 計		31	11	29				
病院		28	10	26				
診療所		3	1	3				